

2026年度入試

入学試験問題集

【経営学部 経営学科】



東京成徳大学

TOKYO SEITOKU
UNIVERSITY

目 次

総合型選抜 9月入試 1次選考	1
総合型選抜 9月入試 2次選考 レポート課題	3
総合型選抜 10月入試	4
総合型選抜 12月入試	6
指定校推薦入試 1期	8
指定校推薦入試 2期	9
併願型学校推薦入試 1期	11
併願型学校推薦入試 2期	13
外国人留学生入試.....	15
一般選抜 D日程入試.....	17
出題意図.....	18

※社会人入試、帰国生入試、編入学試験は志願者がいなかったため実施しておりません。

「一般選抜 A 日程・B 日程・C 日程」の問題は、
「2026 年度入試問題集 一般選抜 A 日程入試・
B 日程入試・C 日程入試」に掲載しています。

●総合型選抜 9月入試 1次選考

【小論文】（試験時間：60分）

以下は、日本の環境問題について説明した文章である。課題文を読んで、後の設問に解答しなさい。

【課題文】

能登半島地震において、SNS は情報収集手段や安否確認手段として寄与していた一方で、SNS 上では、(a) 迅速な救命・救助活動や円滑な復旧・復興活動を妨げるような偽・誤情報が流通したと指摘されている。

X (Twitter Japan 社) によれば、X (旧 Twitter) における能登半島地震に関する偽・誤情報を含む投稿の主なものとして、今回の地震が「人工地震」であるとの言葉を含む投稿が約 10 万件、「窃盗団」(が現地に出没)に関する投稿が約 200 件、「支援要請」(偽の寄付を募るもの)に関する投稿が約 350 件、「救助要請」に関する投稿が約 21,000 件あったとされる。

(b) 日本ファクトチェックセンター (JFC) では、能登半島地震をめぐる大量の偽・誤情報の拡散を踏まえ、継続的に情報を (c) けんしょうし、事実確認を実施している。2024 年 1 月 27 日には、災害発生時から復旧・復興など、それぞれの段階で何が話題になるかの傾向について、整理・公表した。災害時に広がる偽情報 5 つのタイプを分類するとともに、「『志賀原発から海上に油 19800 リットルが漏れ始めた』は誤り」「『仮想通貨で寄付を呼びかけるサイト』は誤り」といったファクトチェック記事を公開している。

情報通信研究機構 (NICT) が開発・試験公開した災害状況要約システム D-SUMM (ディーサム) での X (旧 Twitter) における投稿分析によれば、今回の能登半島地震では、発災後 24 時間の間に投稿された救助を求める報告の数 (総報告数 16,739 のうち 1,091) が、2016 年の熊本地震の際の報告数 (総報告数 19,095 のうち 573) と比較して倍増した。この 1,091 件のうち 254 件の投稿で (d) 矛盾報告が検出され、デマと推定できたのは 104 件あった。システムが分析するのは X の日本語投稿の 10% であるが、熊本地震の救助を求める報告数 (573) の中で、偽情報とみられたものは 1 件であり、今回の能登半島地震において、SNS 上で偽情報がより多く投稿されていたことが分かった。

災害発生時には、災害情報や避難情報を確実に取得することが重要となる。正確な情報を入手する上では、政府・自治体のホームページ、取材と編集に裏打ちされた情報発信を行う放送などのほか、ファクトチェック団体による情報も情報源として有用である。

東京大学大学院情報学環の澁谷准教授は、能登半島地震時の偽・誤情報には次のような特徴があったことを指摘している。

(ア) X (旧 Twitter)

善意による投稿もあるが、閲覧数稼ぎを目的としたと考えられる複製投稿や金銭搾取を目的としたと考えられる虚偽の救助要請や振込依頼に関する投稿等が見られた。

また、複製投稿については、そのユーザーのうち 9 割が日本語使用者以外と推定されるユーザーによるものという点も特徴的であった。

(イ) X: コミュニティノート

コミュニティノート機能は、令和 3 年以降 X でより正確な情報を入手できるようにすることを目的に作られた機能であり、誤解を招く可能性のあるツイートに対し、ユーザーが協力して背景情報を提供することができることから、不確かな情報に対するファクトチェックの役割を担うことが期待されるものである。

能登半島地震に関連して、多くのコミュニティノートが作成され、コミュニティノートの作成に初めて参加した人の数が能登半島地震のときに最大の数を記録した。

SNS における偽・誤情報の流通・拡散を踏まえ、岸田文雄首相は、震災翌日 1 月 2 日の記者会見で、「被害状況などについての悪質な虚偽情報の流通は決して許されぬ。厳に慎んでほしい。」と呼びかけた。総務省では、同日、総務省の SNS アカウントにおいてネット上での偽・誤情報に対する注意喚起を行うとともに、主要な SNS 等プラットフォーム事業者に対し、総務省 SNS アカウントによる注意喚起を情報共有し、各社において、利用規約等を踏まえた適正な対応を引き続き行うよう要請した。

1 月 5 日、利用規約に基づく対応について毎日の報告を求める連絡を踏まえ、LINE ヤフーにおいては、モニタリングを強化し、明らかな偽情報などの違反投稿については削除等を実施するとともに、災害時における SNS のデマ・誤情報について注意喚起を実施していること、X (旧 Twitter) においては、無関係なコンテンツをスパムとしてラベル付けするとともに、QR コードを活用した疑わしい支援要求についてはアカウント凍結していること、Meta においては、通報に対する投稿の削除対応等を実施するとともに、Facebook 上の「災害支援ハブ」による情報共有をしていること、Google においては、YouTube にて一定期間集中的にモニタリングする体制整備とともに、信頼できる情報を見つけやすくする施策を実施していることが報告された。

今後の災害時において期待される対応・対策として、「①事前からの注意喚起や啓発に加え、拡散や影響の最小化への対応・対策が必要」「②拡散されやすい情報の特徴・傾向を踏まえた対応」「③各ステークホルダーの役割に応じた対応・対策の推進と強化」が示唆されている。

(b) プラットフォーマーのような情報を伝送する側の対応だけでなく、情報を受け取る側の対応も重要であり、山口真一国際大学准教授らの調査結果によると、(a) デマに接触した人々のうち 77.5% が自分がだまされていることに気がつかず、特に 50 代から 60 代の層は若年層に比べ、その傾向が強いことが判明している。情報の真偽をけんしょうする活動であるファクトチェックの (e) すいしんやデジタルリテラシーの向上などの取組も重要であり、「デジタル空間における情報流通の健全性確保の在り方に関する検討会」では、情報発信・情報受信・情報伝送という情報流通の過程に分けた基本理念の整理や、ステークホルダー (主体) ごとの役割のほか、デジタル空間における情報流通の健全性確保に向けた具体的な方策などについて、議論が進められている。

出典：『令和 6 年版 情報通信白書』

<https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/r06/pdf/n122000c.pdf>

作問のため、一部の文言を改め、内容を損なわないかたちで加筆・修正し、記号を付記した。

〔問題1〕以下の問いに答えなさい。

- (1) 課題文の下線a、dの漢字の読み方を、解答欄にひらがなで記しなさい。
- (2) 課題文の下線c、eのひらがなを、解答欄に漢字で記しなさい。

〔問題2〕

bに入る接続詞を、以下の4つの中から1つ選びなさい。

〔しかし、すなわち、また、したがって〕

〔問題3〕

- (1) 課題文の要点を、200字以内で述べなさい。
- (2) 「(a) デマに接触した人々のうち 77.5% が自分がだまされていることに気がつかず」とあるが、なぜだまされていることに気がつかないのか、自分の考えを400字以内で述べなさい。

●総合型選抜 9月入試 2次選考

【レポート課題】

【課題内容】

以下の3つの問題から任意の1問を選択し、㊦現在どのような議論がなされているかを説明した上で、㊧あなたの考えを示しなさい。(600字程度でまとめてください。)

1. 高齢者のもっている力を活かす仕組みを築き、高齢者と社会の両方に活力を与えるにはどうすべきか。
2. 女性が活躍できる社会にするにはどのような仕組みが必要だと考えるか。
3. 情報化社会の若者が直面する人間関係のトラブルを解決するにはどうすべきか。

●総合型選抜 10月入試

【小論文】（試験時間：60分）

課題文を読んで、後の設問に解答しなさい。

【課題文】

約30年前の1994年3月に高校等を卒業した者が、同年4月に選んだ進路を調査した結果をみると、就職した者の割合は約3割であった。それに対して、約2割が現役で大学へ進学しており、短期大学等、専修学校（専門課程。以下「専門学校」という。）や大学受験予備校を含むその他学校等も含めると、進学・入学した者が3分の2程度となっていた。

その後、2024年の同調査においては、高校卒業直後に就職する者の割合は15%を下回り、30年前の半分程度となった。一方で、全体の半数以上が現役で大学に進学し、30年前の3倍弱となっている。専門学校への進学割合は、この30年間で大きく変わらないものの、短期大学・その他学校等への進学・入学割合も減少しており、多くは大学に進学している。

なお、この間に少子化が進んでおり、1994年と2024年では高校等の卒業生数に2倍近い差がある。(a)、就職者数はおよそ4分の1にまで減少している一方、浪人生も加味すると大学への進学者数は60万人程度と大きく(b)へんどうしているわけではない。

続いて、各種のアンケート調査により、若者が進学・就職等を機に地元から都市へ転出する理由について確認していく。若年層を対象とした地元（出身高校の所在都道府県）からの転出理由を問うアンケート調査は、全国や各地域など、様々な範囲で行われたものが存在する。アンケートの趣旨によって調査方法や質問内容が異なっているため、似た項目でも統計値の水準感にはかなりのばらつきはあるものの、それらの中で共通する項目に着目して分類すると、一定の要因がみえてくる。

まず、進学時については、進学環境要因と生活要因が挙げられる。全体として、就職時と比べて対象アンケートは少ないものの、進学環境としては、希望の進学先が都市部にある、学びたい内容を学べる大学、あるいは学力に見合った大学が地元がないという理由が挙げられている。生活環境に目を転じると、都会への憧れ、あるいは親元を離れたくないなどが挙げられている。

就職時では、まずは就業環境として、希望の就職先が都市部にあるという理由のほか、志望業種や業務内容の面、あるいは賃金・待遇の面で、都会の方がよかった、あるいは地元で希望するものがなかったという理由が多い。生活要因では、就職環境要因より多様な理由が挙げられており、都会での生活や趣味・娯楽面での利便性など、大都市の優位性のほか、1人暮らしへの欲求、地元への不満などで、地元から出たいという理由も一定程度ある。

総じて、進学・就業環境要因に関する理由が多いものの、都会への憧れや(c)リベンせい、あるいは地元への不満といった理由もみられ、若年層が地元から転出する要因は、複合的に絡み合っていると考えられる。

現在では大学に進学する者が半数以上となっているところ、その層の就職時における地域選択の理由をより詳細に確認したい。

2025年に大学・大学院（修士課程）を卒業・修了見込みである就活生を対象に実施された民間調査において、地元（自らの出身地と思う都道府県）での就職を希望しないと回答した者（919名）の理由をみると、「志望する企業が地元がないから」「給料が安そうだから」「希望するキャリア／スキルを身に付けられないから」といったキャリア・就業環境に関する理由と、「都会の方が生活／遊びや趣味活動の上で便利だから」「実家に住みたくない／離れたいから」といった、生活環境を理由として挙げる声が双方あり、割合としても(d)拮抗している。

続いて、同調査の回答について、属性別の回答率の差から特徴を確認したい。

男女別に分けると、地元就職を希望しない理由で男女差の大きい項目は、「実家に住みたくない／離れたいから」「地元の風土が好きではないから」といった生活環境理由、特に地元から離れたいという内容の項目が多くなっている。いずれも、5%の有意水準で、女性側の選択率が高くなっている。一方で、就業環境を理由として挙げた割合は男女で余り大きな差はない。本調査からは、女性の三大都市圏への純流入が大きい背景には、生活環境があると(e)示唆される。

続いて、進学先が地元以外の者と、地元内の者の間で、地元就職を希望しない理由を比較すると、「都会の方が生活／遊びや趣味活動の上で便利だから」という都会の利便性と、「給料が安そうだから」「大手企業がないから」といった就業環境の項目において、5%の有意水準で、地元外進学者の割合が高い。実際に地元外での学生生活を送る中で、大学が所在する都市の生活環境・就業環境の良さを感じているのかもしれない。

なお、地元内進学した者が地元外進学者より5%の有意水準で高い割合を示した理由としては、「地域にとらわれず働きたいから」という理由が挙げられている。

有意水準：統計的検定で「偶然のためではない」と判断するためのハードルの高さを、あらかじめ数値で決めたもの
出典：

内閣府政策統括官（経済財政分析担当）

『内閣府 地域課題分析レポート ポストコロナ禍の若者の地域選択と人口移動』

https://www5.cao.go.jp/j-j/cr/cr24-3/pdf/chr24-3_2.pdf

作問のため一部の文言を改め、内容を損なわないかたちで加筆・修正し、記号を付記した。

最終閲覧 2025年10月8日。

【問題1】

以下の問いに答えなさい。

- (1) 課題文の下線 b、c のひらがなを、解答欄に漢字で記しなさい。
- (2) 課題文の下線 d、e の漢字の読み方を、解答欄にひらがなで記しなさい。

【問題2】

aに入る接続詞を、以下の4つの中から1つ選びなさい。

〔しかし、すなわち、また、このため〕

【問題3】

- (1) 課題文の要点を、200字以内で述べなさい。
- (2) 課題文の状況はどのような問題を引き起こすか、またその問題に対してどのような対策が考えられるか、自分の考えを400字以内で述べなさい。

●総合型選抜 12月入試

【小論文】（試験時間：60分）

課題文を読んで、後の設問に解答しなさい。

〔課題文〕

人口減少・少子高齢化が進む中、国内交流の拡大を通じて、25兆円に上る国内旅行市場を維持・拡大していくことは、地域経済の活性化のみならず、国民に豊かな人生を生きる活力や地域への誇り等をもたらす観点からも極めて重要である。

我が国の国内旅行市場は長期で伸び悩んでいる。この背景には、一人当たり旅行実施率や旅行回数が少ない高齢人口の増加と、休暇取得等をはじめ、旅行を実施するにあたっての様々なハードルがある。(a)、国民が生活において余暇を重視する傾向は高まっており、旅行は今なお多くの国民にとって余暇を充実させる重要な要素である。また、現在及び将来にわたって市場を支える若年層の旅行実施の傾向は高まっており、これは明るい兆しと考えられる。

国内旅行の活性化に向けては、将来にわたって国内旅行市場を支える若年層、特に休暇取得等に課題がある子育て世代を含む中間層、観光によってより豊かな暮らしを実現できる可能性がある高齢層それぞれが求める旅行ニーズを踏まえた交流市場の開拓や、旅行実施における各種ハードルを解消していく取組が必要である。

若年層については、休暇取得や家計制約等が主なハードルであるものの、ほかの年代や過去の若年層と比べて国内旅行実施の傾向が高く、趣味のイベント参加や現地の人との交流、地域社会への貢献等の目的の旅行(b)しこうが高い。若年層の更なる旅行促進に向けては、官民(c)れんけいで柔軟に休暇取得ができるような環境整備に取り組むことに加え、各地域や事業者において、(a)人・地域とのつながりや地域貢献等を重視した旅行が実現できるような対応が求められる。

子育て世代を含む中間層については、休暇取得の難しさや同行者との日程調整、家計制約といった課題が旅行実施を(d)阻害しており、休日等への旅行需要の集中により、旅行料金の高騰や観光地の混雑にも直面しているとみられる。このため、柔軟に休暇取得ができるような環境整備に加え、ワーケーションや需要の集中を避けた平日旅行の推進等、旅行日程の柔軟性の確保や旅行費用の(e)低減につながるような取組が必要である。

高齢層については、健康上の理由により旅行を諦めざるを得ない層が存在するため、全体の旅行の実施傾向は低いものの、旅行を「最も大切な趣味」と捉え、国内旅行を積極的に実施している層も一定数存在する。平日旅行の割合が高いことも特徴的である。少子高齢化が進む中、健康面に不安のある高齢者を含め、誰もが旅行しやすい環境整備に取り組むことが必要である。これにより旅行市場全体の底上げや旅行需要の平準化につながるのみならず、これまで旅行を諦めざるを得なかった高齢者個人に、豊かな人生のための活力や健康増進をもたらすことも期待される。

出典：『令和7年版 観光白書』

<https://www.mlit.go.jp/statistics/content/001890796.pdf>

作問のため、一部の文言を改め、内容を損なわないかたちで加筆・修正し、記号を付記した。

最終閲覧 2025年12月10日。

〔問題1〕以下の問いに答えなさい。

- (1) 課題文の下線 b、c のひらがなを、解答欄に漢字で記しなさい。
- (2) 課題文の下線 d、e の漢字の読み方を、解答欄にひらがなで記しなさい。

〔問題2〕

a に入ることばを、以下の4つの中から1つ選びなさい。

〔そのため、他方、まず、したがって〕

〔問題3〕

- (1) 課題文の要点を、200字以内で述べなさい。
- (2) 「(a) 人・地域とのつながりや地域貢献等を重視した旅行」の実現は、旅行者、旅行業者、社会にどのような良い影響を与えるか、自分の考えを400字以内で書きなさい。

●指定校推薦入試 1 期

【小論文】（試験時間：60 分）

課題文を読んで、後の設問に解答しなさい。

【課題文】

岩手県盛岡市のタヤマスタジオ株式会社は、400 年以上の歴史を持つ伝統的工芸品である南部鉄器を製造・販売する企業である。2018 年に厚生労働省から「卓越した技能者（現代の名工）」に選ばれた田山和康氏を父に持つ田山貴紘社長が、2013 年に設立した。

南部鉄器は (a) せいこう で硬派な作りが特徴で、その製造技術は職人の繊細な感覚に頼るところが多く、火に当たった際の音や色などが暗黙知として継承されてきた。[b]、技術継承は熟練のベテラン職人による OJT 指導が一般的で、若手職人が一人前になるまで 10 年ほどの長期間を要していた。ベテラン職人が指導を丁寧に行うほど、鉄器製造に割く時間が減少して生産性が低下してしまうほか、若手職人の戦力化に時間が掛かることも経営面では負担となっており、(a) 職人育成と生産性向上の両立が課題だった。

田山社長は「若手職人が早期に付加価値を生み出せる環境を整備することが経営と技術継承のカギ」と考え、2018 年に新製品「あかいりんご」の開発に着手。「あかいりんご」は田山社長が考案した、表面に模様を持たないシンプルなデザインの鉄瓶であり、高度な技術が必要で習熟に時間が掛かる「模様押し」の工程を省いた簡易な作りにした。若手職人でも基礎的な技術の活用だけで完成まで (c) いっかん して対応できる製品を開発したことで、技術習得が容易になり、人材育成の簡略化と量産体制の構築を進めた。

さらに、2023 年から取り組んでいるのが技術継承への AI の活用だ。2018 年に参加した AI 導入促進のワークショップから着想を得た後、2019 年に AI を活用した技術継承を支援する事業を行う盛岡市出身の経営者との出会いを (d) 契機に、同社と岩手大学との共同研究が開始。昨年には盛岡市の補助金を活用して実証実験も行っており、和康氏へのヒアリングを基に、(e) くわうぞう の基本から南部鉄器の不良発生メカニズムなどを工学的知見も含めて学習させることで、熟練のベテラン職人の思考をモデル化し、若手職人が製造技術やノウハウの基礎的な部分を AI から自主学習できるようにした。これらの取組を通じて、経験や感覚に基づく暗黙知を形式知に変換し、効率的な技術継承が可能となる仕組みづくりを進めている。

「あかいりんご」の開発と AI 活用により、現在は入社 3 年目の若手職人が、製品を一人で完成させている。田山社長の発想の転換が生み出した「あかいりんご」は、模様押しの工程省略により価格も抑えられ、かつ、手に取りやすい価格と生活になじみやすいデザインという従来の南部鉄器と異なる特徴が目立って顧客の裾野を広げることに成功した。AI 活用を通じては、年齢の離れた職人間のコミュニケーションの質の向上や、ベテラン職人の指導時間の減少といった効果も見え始めているという。

現在は、鑄造などの基礎的な技術・ノウハウにとどまるが、今後は着色や火入れ具合など高度なノウハウの継承にも AI を活用できるように試行錯誤を続けている。「過去からの積み重ねは早く習得するのが責任だ」という意識で、技術習得の仕組みづくりを行っている。「あかいりんご」と AI 活用を組み合わせ、新たな積み重ねを行い、伝統工芸を高度化させていきたい」と田山社長は語る。

出典：『2025 年版 中小企業白書』

https://www.chusho.meti.go.jp/pamflet/hakusyo/2025/chusho/b1_1_4.html

作問のため一部の文言を改め、内容を損なわないかたちで加筆・修正し、記号を付記した。

【問題 1】

以下の問いに答えなさい。

- (1) 課題文の下線 a、c のひらがなを、解答欄に漢字で記しなさい。
- (2) 課題文の下線 d、e の漢字の読み方を、解答欄にひらがなで記しなさい。

【問題 2】

b に入る接続詞を、以下の 4 つの中から 1 つ選びなさい。

〔しかし、すなわち、そのため、例えば〕

【問題 3】

- (1) 課題文の内容を要約しなさい。(合計 200 字以内)
- (2) 「(a) 職人育成と生産性向上の両立」がうまく行えないと、個人、企業、社会にとってどのようなデメリットがあるか、400 字以内で自分の考えを述べなさい。

●指定校推薦入試 2 期

【小論文】（試験時間：60 分）

課題文を読んで、後の設問に解答しなさい。

〔課題文〕

人口減少・少子高齢化が進む中、国内交流の拡大を通じて、25兆円に上る国内旅行市場を維持・拡大していくことは、地域経済の活性化のみならず、国民に豊かな人生を生きる活力や地域への誇り等をもたらす観点からも極めて重要である。

我が国の国内旅行市場は長期で伸び悩んでいる。この背景には、一人当たり旅行実施率や旅行回数が少ない高齢人口の増加と、休暇取得等をはじめ、旅行を実施するにあたっての様々なハードルがある。(a)、国民が生活において余暇を重視する傾向は高まっており、旅行は今なお多くの国民にとって余暇を充実させる重要な要素である。また、現在及び将来にわたって市場を支える若年層の旅行実施の傾向は高まっており、これは明るい兆しと考えられる。

国内旅行の活性化に向けては、将来にわたって国内旅行市場を支える若年層、特に休暇取得等に課題がある子育て世代を含む中間層、観光によってより豊かな暮らしを実現できる可能性がある高齢層それぞれが求める旅行ニーズを踏まえた交流市場の開拓や、旅行実施における各種ハードルを解消していく取組が必要である。

若年層については、休暇取得や家計制約等が主なハードルであるものの、ほかの年代や過去の若年層と比べて国内旅行実施の傾向が高く、趣味のイベント参加や現地の人との交流、地域社会への貢献等の目的の旅行(b)しこうが高い。若年層の更なる旅行促進に向けては、官民(c)れんけいで柔軟に休暇取得ができるような環境整備に取り組むことに加え、各地域や事業者において、(a)人・地域とのつながりや地域貢献等を重視した旅行が実現できるような対応が求められる。

子育て世代を含む中間層については、休暇取得の難しさや同行者との日程調整、家計制約といった課題が旅行実施を(d)阻害しており、休日等への旅行需要の集中により、旅行料金の高騰や観光地の混雑にも直面しているとみられる。このため、柔軟に休暇取得ができるような環境整備に加え、ワーケーションや需要の集中を避けた平日旅行の推進等、旅行日程の柔軟性の確保や旅行費用の(e)低減につながるような取組が必要である。

高齢層については、健康上の理由により旅行を諦めざるを得ない層が存在するため、全体の旅行の実施傾向は低いものの、旅行を「最も大切な趣味」と捉え、国内旅行を積極的に実施している層も一定数存在する。平日旅行の割合が高いことも特徴的である。少子高齢化が進む中、健康面に不安のある高齢者を含め、誰もが旅行しやすい環境整備に取り組むことが必要である。これにより旅行市場全体の底上げや旅行需要の平準化につながるのみならず、これまで旅行を諦めざるを得なかった高齢者個人に、豊かな人生のための活力や健康増進をもたらすことも期待される。

出典：『令和7年版 観光白書』

<https://www.mlit.go.jp/statistics/content/001890796.pdf>

作問のため、一部の文言を改め、内容を損なわないかたちで加筆・修正し、記号を付記した。

最終閲覧 2025年12月10日。

〔問題1〕以下の問いに答えなさい。

- (1) 課題文の下線 b、c のひらがなを、解答欄に漢字で記しなさい。
- (2) 課題文の下線 d、e の漢字の読み方を、解答欄にひらがなで記しなさい。

〔問題2〕

a に入ることばを、以下の4つの中から1つ選びなさい。

〔そのため、他方、まず、したがって〕

〔問題3〕

- (1) 課題文の要点を、200字以内で述べなさい。
- (2) 「(a) 人・地域とのつながりや地域貢献等を重視した旅行」の実現は、旅行者、旅行業者、社会にどのような良い影響を与えるか、自分の考えを400字以内で書きなさい。

●併願型学校推薦入試 1 期

【小論文】（試験時間：60 分）

課題文を読んで、後の設問に解答しなさい。

【課題文】

岩手県盛岡市のタヤマスタジオ株式会社は、400 年以上の歴史を持つ伝統的工芸品である南部鉄器を製造・販売する企業である。2018 年に厚生労働省から「卓越した技能者（現代の名工）」に選ばれた田山和康氏を父に持つ田山貴紘社長が、2013 年に設立した。

南部鉄器は (a) せいこう で硬派な作りが特徴で、その製造技術は職人の繊細な感覚に頼るところが多く、火に当てた際の音や色などが暗黙知として継承されてきた。[b]、技術継承は熟練のベテラン職人による OJT 指導が一般的で、若手職人が一人前になるまで 10 年ほどの長期間を要していた。ベテラン職人が指導を丁寧に行うほど、鉄器製造に割く時間が減少して生産性が低下してしまうほか、若手職人の戦力化に時間が掛かることも経営面では負担となっており、(a) 職人育成と生産性向上の両立が課題だった。

田山社長は「若手職人が早期に付加価値を生み出せる環境を整備することが経営と技術継承のカギ」と考え、2018 年に新製品「あかいりんご」の開発に着手。「あかいりんご」は田山社長が考案した、表面に模様を持たないシンプルなデザインの鉄瓶であり、高度な技術が必要で習熟に時間が掛かる「模様押し」の工程を省いた簡易な作りにした。若手職人でも基礎的な技術の活用だけで完成まで (c) いっかん して対応できる製品を開発したことで、技術習得が容易になり、人材育成の簡略化と量産体制の構築を進めた。

さらに、2023 年から取り組んでいるのが技術継承への AI の活用だ。2018 年に参加した AI 導入促進のワークショップから着想を得た後、2019 年に AI を活用した技術継承を支援する事業を行う盛岡市出身の経営者との出会いを (d) 契機に、同社と岩手大学との共同研究が開始。昨年には盛岡市の補助金を活用して実証実験も行っており、和康氏へのヒアリングを基に、(e) ちゅうぞう の基本から南部鉄器の不良発生メカニズムなどを工学的知見も含めて学習させることで、熟練のベテラン職人の思考をモデル化し、若手職人が製造技術やノウハウの基礎的な部分を AI から自主学習できるようにした。これらの取組を通じて、経験や感覚に基づく暗黙知を形式知に変換し、効率的な技術継承が可能となる仕組みづくりを進めている。

「あかいりんご」の開発と AI 活用により、現在は入社 3 年目の若手職人が、製品を一人で完成させている。田山社長の発想の転換が生み出した「あかいりんご」は、模様押しの工程省略により価格も抑えられ、かつ、手に取りやすい価格と生活になじみやすいデザインという従来の南部鉄器と異なる特徴が目立って顧客の裾野を広げることに成功した。AI 活用を通じては、年齢の離れた職人間のコミュニケーションの質の向上や、ベテラン職人の指導時間の減少といった効果も見え始めているという。

現在は、鑄造などの基礎的な技術・ノウハウにとどまるが、今後は着色や火入れ具合など高度なノウハウの継承にも AI を活用できるように試行錯誤を続けている。「過去からの積み重ねは早く習得するのが責任だ」という意識で、技術習得の仕組みづくりを行っている。「あかいりんご」と AI 活用を組み合わせ、新たな積み重ねを行い、伝統工芸を高度化させていきたい」と田山社長は語る。

出典：『2025 年版 中小企業白書』

https://www.chusho.meti.go.jp/pamflet/hakusyo/2025/chusho/b1_1_4.html

作問のため一部の文言を改め、内容を損なわないかたちで加筆・修正し、記号を付記した。

【問題 1】

以下の問いに答えなさい。

- (1) 課題文の下線 a、c のひらがなを、解答欄に漢字で記しなさい。
- (2) 課題文の下線 d、e の漢字の読み方を、解答欄にひらがなで記しなさい。

【問題 2】

b に入る接続詞を、以下の 4 つの中から 1 つ選びなさい。

〔しかし、すなわち、そのため、例えば〕

【問題 3】

- (1) 課題文の内容を要約しなさい。(合計 200 字以内)
- (2) 「(a) 職人育成と生産性向上の両立」がうまく行えないと、個人、企業、社会にとってどのようなデメリットがあるか、400 字以内で自分の考えを述べなさい。

〔問題1〕以下の問いに答えなさい。

- (1) 課題文の下線 b、c のひらがなを、解答欄に漢字で記しなさい。
- (2) 課題文の下線 d、e の漢字の読み方を、解答欄にひらがなで記しなさい。

〔問題2〕

a に入ることばを、以下の4つの中から1つ選びなさい。

〔そのため、他方、まず、したがって〕

〔問題3〕

- (1) 課題文の要点を、200字以内で述べなさい。
- (2) 「(a) 人・地域とのつながりや地域貢献等を重視した旅行」の実現は、旅行者、旅行業者、社会にどのような良い影響を与えるか、自分の考えを400字以内で書きなさい。

●併願型学校推薦入試 2 期

【小論文】（試験時間：60 分）

課題文を読んで、後の設問に解答しなさい。

【課題文】

人口減少・少子高齢化が進む中、国内交流の拡大を通じて、25 兆円に上る国内旅行市場を維持・拡大していくことは、地域経済の活性化のみならず、国民に豊かな人生を生きる活力や地域への誇り等をもたらす観点からも極めて重要である。

我が国の国内旅行市場は長期で伸び悩んでいる。この背景には、一人当たり旅行実施率や旅行回数が少ない高齢人口の増加と、休暇取得等をはじめ、旅行を実施するにあたっての様々なハードルがある。(a)、国民が生活において余暇を重視する傾向は高まっており、旅行は今なお多くの国民にとって余暇を充実させる重要な要素である。また、現在及び将来にわたって市場を支える若年層の旅行実施の傾向は高まっており、これは明るい兆しと考えられる。

国内旅行の活性化に向けては、将来にわたって国内旅行市場を支える若年層、特に休暇取得等に課題がある子育て世代を含む中間層、観光によってより豊かな暮らしを実現できる可能性がある高齢層それぞれが求める旅行ニーズを踏まえた交流市場の開拓や、旅行実施における各種ハードルを解消していく取組が必要である。

若年層については、休暇取得や家計制約等が主なハードルであるものの、ほかの年代や過去の若年層と比べて国内旅行実施の傾向が高く、趣味のイベント参加や現地の人との交流、地域社会への貢献等の目的の旅行 (b) しこうが高い。若年層の更なる旅行促進に向けては、官民 (c) れんけいで柔軟に休暇取得ができるような環境整備に取り組むことに加え、各地域や事業者において、(a) 人・地域とのつながりや地域貢献等を重視した旅行が実現できるような対応が求められる。

子育て世代を含む中間層については、休暇取得の難しさや同行者との日程調整、家計制約といった課題が旅行実施を (d) 阻害しており、休日等への旅行需要の集中により、旅行料金の高騰や観光地の混雑にも直面しているとみられる。このため、柔軟に休暇取得ができるような環境整備に加え、ワーケーションや需要の集中を避けた平日旅行の推進等、旅行日程の柔軟性の確保や旅行費用の (e) 低減につながるような取組が必要である。

高齢層については、健康上の理由により旅行を諦めざるを得ない層が存在するため、全体の旅行の実施傾向は低いものの、旅行を「最も大切な趣味」と捉え、国内旅行を積極的に実施している層も一定数存在する。平日旅行の割合が高いことも特徴的である。少子高齢化が進む中、健康面に不安のある高齢者を含め、誰もが旅行しやすい環境整備に取り組むことが必要である。これにより旅行市場全体の底上げや旅行需要の平準化につながるのみならず、これまで旅行を諦めざるを得なかった高齢者個人に、豊かな人生のための活力や健康増進をもたらすことも期待される。

出典：『令和 7 年版 観光白書』

<https://www.mlit.go.jp/statistics/content/001890796.pdf>

作問のため、一部の文言を改め、内容を損なわないかたちで加筆・修正し、記号を付記した。

最終閲覧 2025 年 12 月 10 日。

〔問題1〕以下の問いに答えなさい。

- (1) 課題文の下線 b、c のひらがなを、解答欄に漢字で記しなさい。
- (2) 課題文の下線 d、e の漢字の読み方を、解答欄にひらがなで記しなさい。

〔問題2〕

a に入ることばを、以下の4つの中から1つ選びなさい。

〔そのため、他方、まず、したがって〕

〔問題3〕

- (1) 課題文の要点を、200字以内で述べなさい。
- (2) 「(a) 人・地域とのつながりや地域貢献等を重視した旅行」の実現は、旅行者、旅行業者、社会にどのような良い影響を与えるか、自分の考えを400字以内で書きなさい。

●外国人留学生入試

【小論文】（試験時間：60分）

課題文を読んで、後の設問に解答しなさい。

【課題文】

人口減少・少子高齢化が進む中、国内交流の拡大を通じて、25兆円に上る国内旅行市場を維持・拡大していくことは、地域経済の活性化のみならず、国民に豊かな人生を生きる活力や地域への誇り等をもたらす観点からも極めて重要である。

我が国の国内旅行市場は長期で伸び悩んでいる。この背景には、一人当たり旅行実施率や旅行回数が少ない高齢人口の増加と、休暇取得等をはじめ、旅行を実施するにあたっての様々なハードルがある。(a)、国民が生活において余暇を重視する傾向は高まっており、旅行は今なお多くの国民にとって余暇を充実させる重要な要素である。また、現在及び将来にわたって市場を支える若年層の旅行実施の傾向は高まっており、これは明るい兆しと考えられる。

国内旅行の活性化に向けては、将来にわたって国内旅行市場を支える若年層、特に休暇取得等に課題がある子育て世代を含む中間層、観光によってより豊かな暮らしを実現できる可能性がある高齢層それぞれが求める旅行ニーズを踏まえた交流市場の開拓や、旅行実施における各種ハードルを解消していく取組が必要である。

若年層については、休暇取得や家計制約等が主なハードルであるものの、ほかの年代や過去の若年層と比べて国内旅行実施の傾向が高く、趣味のイベント参加や現地の人との交流、地域社会への貢献等の目的の旅行(b)しこうが高い。若年層の更なる旅行促進に向けては、官民(c)れんけいで柔軟に休暇取得ができるような環境整備に取り組むことに加え、各地域や事業者において、(a)人・地域とのつながりや地域貢献等を重視した旅行が実現できるような対応が求められる。

子育て世代を含む中間層については、休暇取得の難しさや同行者との日程調整、家計制約といった課題が旅行実施を(d)阻害しており、休日等への旅行需要の集中により、旅行料金の高騰や観光地の混雑にも直面しているとみられる。このため、柔軟に休暇取得ができるような環境整備に加え、ワーケーションや需要の集中を避けた平日旅行の推進等、旅行日程の柔軟性の確保や旅行費用の(e)低減につながるような取組が必要である。

高齢層については、健康上の理由により旅行を諦めざるを得ない層が存在するため、全体の旅行の実施傾向は低いものの、旅行を「最も大切な趣味」と捉え、国内旅行を積極的に実施している層も一定数存在する。平日旅行の割合が高いことも特徴的である。少子高齢化が進む中、健康面に不安のある高齢者を含め、誰もが旅行しやすい環境整備に取り組むことが必要である。これにより旅行市場全体の底上げや旅行需要の平準化につながるのみならず、これまで旅行を諦めざるを得なかった高齢者個人に、豊かな人生のための活力や健康増進をもたらすことも期待される。

出典：『令和7年版 観光白書』

<https://www.mlit.go.jp/statistics/content/001890796.pdf>

作問のため、一部の文言を改め、内容を損なわないかたちで加筆・修正し、記号を付記した。

最終閲覧 2025年12月10日。

〔問題1〕以下の問いに答えなさい。

- (1) 課題文の下線 b、c のひらがなを、解答欄に漢字で記しなさい。
- (2) 課題文の下線 d、e の漢字の読み方を、解答欄にひらがなで記しなさい。

〔問題2〕

a に入ることばを、以下の4つの中から1つ選びなさい。

〔そのため、他方、まず、したがって〕

〔問題3〕

- (1) 課題文の要点を、200字以内で述べなさい。
- (2) 「(a) 人・地域とのつながりや地域貢献等を重視した旅行」の実現は、旅行者、旅行業者、社会にどのような良い影響を与えるか、自分の考えを400字以内で書きなさい。

●一般選抜 D日程入試

【小論文】（試験時間：60分）

課題文を読んで、後の設問に解答しなさい。

観光庁では、地方誘客や地方部での消費拡大に向け、訪日旅行における消費単価が高い傾向にある高付加価値旅行者の地方誘客を促進するため、2023年3月に、高(a)ふかかちなインバウンド観光地づくりに取り組む11のモデル地域を選定した。

モデル地域のひとつであり、地域ならではの特別な体験の提供や周遊・長期滞在の促進等、消費拡大に向けた様々な取組により、道県別のインバウンド観光(b)しひょうが堅調に回復している地域に、岩手県（東北エリア）がある。

岩手県は、欧米や東南アジアの延べ宿泊者数の回復率が高く、日帰り客を含む訪問者数と一人当たり平均泊数がいずれも新型コロナウイルス感染拡大前よりも増加しているが、この増大するインバウンド需要に対応するため、受入環境の整備・強化や人材不足等の対応にも取り組んでいる。

盛岡市では、全ての旅行者が快適に、レトロな街並みを散策できるよう受入環境の整備・強化を進めてきた。例えば公衆Wi-Fiの増設や多言語対応のデジタルMAP（11か国語）の拡充が挙げられる。また、市内の事業者が自主的に散策マップ（英語）を作成し無料配布するなどの動きもみられた。

人材不足への対応として、岩手県では、事業者向けにアンケートを実施し人員不足の実態把握を行っている。盛岡市は、人材採用を行った交通事業者に補助金を出し、運転手確保を促進する取組を進めている。

事業者の対策としては、繁忙期や日が長い夏は労働時間を長く、逆に閑散期や日が短い冬は労働時間を短くするといった変形労働時間制の採用や、観光関連産業以外のグループ企業からの人材流動等の工夫によって宿泊業の人材を確保している事業者もある。また、花巻温泉株式会社では台湾からのインターン生の受入、八幡平リゾートでは冬に作業ができない地域の農業従事者等のスポットワーカーの雇用等により繁忙期の対応を行っている。

東北地方では、(α)農業・林業・漁業等の1次産業を観光資源として活用した取組（農泊、林業体験、漁船クルーズ等）も行われており、そこからの収入を1次産業従事者や地域に(c)還元する好循環を構築している地域もある。

β、岩手県釜石市で体験できる「漁船クルーズ」は、漁師の空き時間と漁船という既存資源を有効活用し、地域の魅力を味わうことができる体験型コンテンツである。旅行者にとっては船からでしか見ることができない景観等を楽しむことができ、漁師にとっては通常の仕事の妨げになることなく、新たな収入獲得の手段となっている。観光地域づくり法人(DMO)である株式会社かまいしDMCでは、漁船クルーズ以外に漁業・林業体験ツアーも提供している。このような地元の資源を有効に活用した取組は、「訪問客、産業、環境、受入地域のニーズに適合しながら、現在と未来の経済、社会、環境への影響に十分配慮した観光」という持続可能な観光の考え方に合致しており、釜石市はグリーン・デスティネーションズの「世界の持続可能な観光地100選」29に2018年から6年連続で選ばれている。

また、釜石市では同社が実施主体となり、企業、地方公共団体向けに防災教育、復興まちづくり、持続可能な観光地づくり等に関する研修が行われており、国内各地からだけでなく海外からも受講に訪れる。その際には、周辺の観光地や体験型コンテンツの紹介も行っている。さらに、ラグビーのまちとしても知られている釜石市では、観光庁の「観光再始動事業」の(d)採択を受け、スポーツ観光の推進事業として、2023年11月にシニアラグビーの世界大会である「ワールドマスターズラグビー大会」を開催し、国内外から約100人が同市を訪れた。ラグビー大会と観光を結びつけたことで、「スポーツ」、「宿泊」、「食」、「観光」、「ショッピング」等の幅広い分野における地元での消費につなげている。

出典：『国土交通省 観光白書 令和6年版』

<https://www.mlit.go.jp/statistics/file000008.html>

作問のため一部の文言を改め、内容を損なわないかたちで加筆・修正し、記号を付記した。

最終閲覧 2026年3月9日。

【問題1】 以下の問いに答えなさい。

- (1) 課題文の下線 a、b のひらがなを、解答欄に漢字で記しなさい。
- (2) 課題文の下線 c、d の漢字の読み方を、解答欄にひらがなで記しなさい。

【問題2】 βに入る接続詞を、以下の4つの中から1つ選びなさい。

（しかし、すなわち、また、例えば）

【問題3】

- (1) 課題文の内容を要約しなさい。（合計200字以内）
- (2) 「(α)農業・林業・漁業等の1次産業を観光資源として活用した取組（農泊、林業体験、漁船クルーズ等）」には、どのような利点と難しさがあるか、自分の考えを400字以内で述べなさい。

●出題意図・解答

総合型選抜 9月入試 1次選考【出題意図・解答】

大量の情報の真偽を見極め、安全に、効果的に活用することは、現代のビジネスにおいて、生活において不可欠である。とくに災害時という公共性の高い状況では、正確な情報選別と拡散抑制に役立つ主体的態度の形成が望まれる。ここでは『令和6年版情報通信白書』に記載された能登半島地震時のSNS上の偽・誤情報について文章を素材に、受験生の社会課題への関心、批判的思考と判断力を、総合的に評価する。要約問題においては、具体的データと制度・主体を核に、問題の構造と対策を200字で要約させ、要点抽出力を測定する。論述問題においては、だまされやすさの背景を、自身の経験と一般理論に基づいて因果的に説明させ、実践的示唆に結びつける思考力・判断力・表現力を測定する。

出典：『令和6年版 情報通信白書』

<https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/r06/pdf/n122000c.pdf>

作問のため、一部の文言を改め、内容を損なわないかたちで加筆・修正し、記号を付記した。

最終閲覧 2025年9月3日。

[問題1]

- a じんそく
- c 検証
- d むじゅん
- e 推進

[問題2]

また

総合型選抜 9月入試 2次選考【出題意図】

経営学部では、企業や組織が発展するための仕組みを学ぶ。企業は、経済の動向や市場の変化など、社会環境の動きに対応する必要がある。そこで受験生には、企業を取り巻く社会環境の時事的な問題に関心を持ち、主体的に検討する姿勢を期待する。

このような観点から本課題では、現代の我が国で重要と考えられる3つの社会問題を呈示した。高齢者の社会参加の活性化、女性の社会進出の推進、若者のデジタル環境におけるトラブル、である。受験生には1つの社会問題を選択させた上で、その問題に対する理解と考察を解答させた。

解答は以下の3つの観点から評価する。第一に、その社会問題の現状を把握し、課題を抽出できるか。第二に、その課題を解決するため、妥当な意見を提出できるか。第三に、文章を論理的に構成し、適切な言葉を用いて表現できるか。

総合型選抜 10月入試【出題意図・解答】

人口動態についての理解は、現代ビジネスにおいて不可欠である。

ここでは『内閣府 地域課題分析レポート ポストコロナ禍の若者の地域選択と人口移動』に記載された若年層が東京圏に集中する理由について文章を素材に、受験生の社会課題への関心、批判的思考と判断力を、総合的に評価する。

要約問題においては、論旨の核心を抽出し構造化する力を測定する。論述問題においては、若年層が東京圏に集中する現状とその背景を理解し、それがどのような問題に繋がりを示すかを説明させ、現象の先にある社会的帰結を論理的に推論する力と、考察を実践的示唆に結びつける思考力・判断力・表現力を測定する。

出典：内閣府政策統括官（経済財政分析担当）『内閣府 地域課題分析レポート ポストコロナ禍の若者の地域選択と人口移動』
https://www5.cao.go.jp/j-j/cr/cr24-3/pdf/chr24-3_2.pdf

なお、作問のため一部の文言を改め、内容を損なわないかたちで加筆・修正し、記号を付記した。

最終閲覧 2025年9月18日。

[問題1]

- b 変動
- c 利便性
- d きっこう
- e しさ

[問題2]

このため

総合型選抜 12月入試【出題意図・解答】

人口減少と少子高齢化の進行下での国内旅行市場の維持・拡大は、地域経済の活性化のみならず、国民の心身の健康や地域アイデンティティの醸成に資する重要課題である。

ここでは観光白書の素材を通じ、若年層・中間層・高齢層それぞれの旅行ニーズと阻害要因、ならびに休暇取得・平準化・受入体制整備といった政策的示唆を統合的に捉える力を測定する。

要約問題においては、背景（需要停滞の構造）、対象（層別課題）、方策（環境整備・官民連携・需要平準化）の因果と優先度を200字に圧縮し、核心を構造化する力を評価する。

論述問題においては、「人・地域とのつながり・地域貢献」を重視した旅行の必要性を、需要側（若年層の動機・再訪誘発）、供給側（混雑緩和・平日化・価格高騰抑制・受入強靱化）、マクロ（市場の持続性・地域活性・高齢者の健康増進）にわたって論理的に展開する力、またリスクへの配慮等を含む批判的思考力、総合的判断力ならびに表現力を評価する。

出典：『令和7年版 観光白書』

<https://www.mlit.go.jp/statistics/content/001890796.pdf>

作問のため、一部の文言を改め、内容を損なわないかたちで加筆・修正し、記号を付記した。

最終閲覧 2025年10月8日。

[問題1]

- (1) 正解— (b) 志向
正解— (c) 連携
- (2) 正解— (d) そがい
正解— (e) ていげん

[問題2]

他方

指定校推薦入試 1 期【出題意図・解答】

技術継承と生産性向上の両立は、経営、社会において重要な課題のひとつである。ここでは南部鉄器の具体事例を通じて、その構造を的確に捉え、影響や解決策について多面的に考察する能力を測定する。

要約問題においては、論旨の核心を抽出し構造化する力を測る。

論述問題においては、個人・企業・社会の各レベルに視点を広げ、因果関係とリスクを論理的に整理する能力、技術継承の仕組み化やデザイン戦略、AI 活用など実践的示唆につなげる批判的思考・判断力・表現力を評価する。

出典：『2025 年版 中小企業白書』

https://www.chusho.meti.go.jp/pamflet/hakusyo/2025/chusho/b1_1_4.html

作問のため一部の文言を改め、内容を損なわないかたちで加筆・修正し、記号を付記した。

最終閲覧 2025 年 10 月 8 日。

[問題 1]

- a 精巧
- c 一貫
- d けいき
- e ちゅうぞう

[問題 2]

そのため

指定校推薦入試 2 期【出題意図・解答】

人口減少と少子高齢化の進行下での国内旅行市場の維持・拡大は、地域経済の活性化のみならず、国民の心身の健康や地域アイデンティティの醸成に資する重要課題である。

ここでは観光白書の素材を通じ、若年層・中間層・高齢層それぞれの旅行ニーズと阻害要因、ならびに休暇取得・平準化・受入体制整備といった政策的示唆を統合的に捉える力を測定する。

要約問題においては、背景（需要停滞の構造）、対象（層別課題）、方策（環境整備・官民連携・需要平準化）の因果と優先度を200字に圧縮し、核心を構造化する力を評価する。

論述問題においては、「人・地域とのつながり・地域貢献」を重視した旅行の必要性を、需要側（若年層の動機・再訪誘発）、供給側（混雑緩和・平日化・価格高騰抑制・受入強靱化）、マクロ（市場の持続性・地域活性・高齢者の健康増進）にわたって論理的に展開する力、またリスクへの配慮等を含む批判的思考力、総合的判断力ならびに表現力を評価する。

出典：『令和7年版 観光白書』

<https://www.mlit.go.jp/statistics/content/001890796.pdf>

作問のため、一部の文言を改め、内容を損なわないかたちで加筆・修正し、記号を付記した。

最終閲覧 2025 年 10 月 8 日。

[問題 1]

- (1) 正解— (b) 志向
正解— (c) 連携
- (2) 正解— (d) そがい
正解— (e) ていげん

[問題 2]

他方

併願型学校推薦入試 1 期【出題意図・解答】

技術継承と生産性向上の両立は、経営、社会において重要な課題のひとつである。ここでは南部鉄器の具体事例を通じて、その構造を的確に捉え、影響や解決策について多面的に考察する能力を測定する。

要約問題においては、論旨の核心を抽出し構造化する力を測る。

論述問題においては、個人・企業・社会の各レベルに視点を広げ、因果関係とリスクを論理的に整理する能力、技術継承の仕組み化やデザイン戦略、AI 活用など実践的示唆につなげる批判的思考・判断力・表現力を評価する。

出典：『2025 年版 中小企業白書』

https://www.chusho.meti.go.jp/pamflet/hakusyo/2025/chusho/b1_1_4.html

作問のため一部の文言を改め、内容を損なわないかたちで加筆・修正し、記号を付記した。

最終閲覧 2025 年 10 月 8 日。

[問題 1]

- a 精巧
- c 一貫
- d けいき
- e ちゅうぞう

[問題 2]

そのため

併願型学校推薦入試 2 期【出題意図・解答】

人口減少と少子高齢化の進行下での国内旅行市場の維持・拡大は、地域経済の活性化のみならず、国民の心身の健康や地域アイデンティティの醸成に資する重要課題である。

ここでは観光白書の素材を通じ、若年層・中間層・高齢層それぞれの旅行ニーズと阻害要因、ならびに休暇取得・平準化・受入体制整備といった政策的示唆を統合的に捉える力を測定する。

要約問題においては、背景（需要停滞の構造）、対象（層別課題）、方策（環境整備・官民連携・需要平準化）の因果と優先度を200字に圧縮し、核心を構造化する力を評価する。

論述問題においては、「人・地域とのつながり・地域貢献」を重視した旅行の必要性を、需要側（若年層の動機・再訪誘発）、供給側（混雑緩和・平日化・価格高騰抑制・受入強靱化）、マクロ（市場の持続性・地域活性・高齢者の健康増進）にわたって論理的に展開する力、またリスクへの配慮等を含む批判的思考力、総合的判断力ならびに表現力を評価する。

出典：『令和7年版 観光白書』

<https://www.mlit.go.jp/statistics/content/001890796.pdf>

作問のため、一部の文言を改め、内容を損なわないかたちで加筆・修正し、記号を付記した。

最終閲覧 2025 年 10 月 8 日。

[問題 1]

- (1) 正解— (b) 志向
正解— (c) 連携
- (2) 正解— (d) そがい
正解— (e) ていげん

[問題 2]

他方

外国人留学生入試【出題意図・解答】

人口減少と少子高齢化の進行下での国内旅行市場の維持・拡大は、地域経済の活性化のみならず、国民の心身の健康や地域アイデンティティの醸成に資する重要課題である。

ここでは観光白書の素材を通じ、若年層・中間層・高齢層それぞれの旅行ニーズと阻害要因、ならびに休暇取得・平準化・受入体制整備といった政策的示唆を統合的に捉える力を測定する。

要約問題においては、背景（需要停滞の構造）、対象（層別課題）、方策（環境整備・官民連携・需要平準化）の因果と優先度を200字に圧縮し、核心を構造化する力を評価する。

論述問題においては、「人・地域とのつながり・地域貢献」を重視した旅行の必要性を、需要側（若年層の動機・再訪誘発）、供給側（混雑緩和・平日化・価格高騰抑制・受入強靱化）、マクロ（市場の持続性・地域活性・高齢者の健康増進）にわたって論理的に展開する力、またリスクへの配慮等を含む批判的思考力、総合的判断力ならびに表現力を評価する。

出典：『令和7年版 観光白書』

<https://www.mlit.go.jp/statistics/content/001890796.pdf>

作問のため、一部の文言を改め、内容を損なわないかたちで加筆・修正し、記号を付記した。

最終閲覧 2025年10月8日。

[問題1]

- (1) 正解— (b) 志向
正解— (c) 連携
- (2) 正解— (d) そがい
正解— (e) ていげん

[問題2]

他方

一般選抜 D 日程入試【出題意図】

高付加価値インバウンド観光を軸とした地方創生をテーマに、具体的な地域事例（岩手県）を通じて、その課題と多角的な対応策を理解・分析する能力を測定する。

要約問題では、地域が直面するインバウンド誘致や受入環境整備、人材対策、持続可能な観光といった複雑な要素から、主要な論点と因果関係を抽出し論理的に再構成する情報整理力と表現力を評価する。

論述問題では、「一次産業を観光資源として活用する取り組み」という具体的な地方創生策に対し、課題文の事例を手がかりに、多層的な「利点」と「難しさ」を考察する力を測る。これは、経済効果、地域活性化、人材確保、環境配慮、持続可能性など、多様な側面で物事を捉え、自身の見解を論理的に記述する力、批判的思考力、現代の地域課題解決への実践的な思考力等を、総合的に評価するものでもある。

出典：『国土交通省 観光白書 令和6年版』

<https://www.mlit.go.jp/statistics/file000008.html>

作問のため一部の文言を改め、内容を損なわないかたちで加筆・修正し、記号を付記した。

最終閲覧 2025 年 12 月 10 日。

[問題 1]

基礎的な語彙力を問う。

[問題 2]

基礎的な読解力を問う。

[問題 3]

次の観点から解答を評価する。

(1) については、課題文が主張する意味を正確に判断しているか、課題文の理解度を評価する。

(2) については、既存の知識と課題文の説明を組み合わせ、考察できているかを評価する。また、説得力をもって主張を表現しているか、文章表現の適切性を評価する。

解答

[問題 1]

(1) 正解— (a) 付加価値

正解— (b) 指標

(2) 正解— (c) かんげん

正解— (d) さいたく

[問題 2]

他方

[問題 3]

(1) 例えば